

高糖系温州の枝梢管理法

第 1 報 高接ぎ初年月における生理活性物質利用及び摘芯方法について

柳 英雄・*河瀬憲次・**岩垣 功

(熊本県果樹試験場, *果樹試験場口之津支場, **果樹試験場興津支場)

Hideo SAKAKI, Kenji KAWASE and Isao IWAGAKI : Management on Shoots and Branches in Satsuma Mandarins of High Brix Strain

1. Effects of Physiologically Active Substance and Topping in the First Year of Top-Working

一般に高糖系と呼ばれる品種は樹勢が強く、しかも隔年結果性が強いなど高品質ではあるが結実不安定で作りにくい。このようなことから、結果樹齢の短縮と結実安定技術の確保のため、枝の発生促進、伸長抑制を目的に各種生理活性物質の利用や摘芯の程度・時期について検討した。

1. 試験方法

果樹試験場興津支場の23年生繁田温州に1987年4月下旬に青島温州、大津4号、丹生系温州、青島温州の珠心胚実生(仮称K-1)、寿太郎温州、杉山温州を各8樹ずつ高接ぎした。発生した新梢を10節と20節残して摘芯した区、放任区に大別し、BAの150ppm、PP-333の*1,000ppmを単用散布及びBAとPP-333を重複散布した。

調査は、摘芯後発生した新梢及び翌年の着花、新梢本数について行った。

2. 試験結果

系統では、新梢発生本数は寿太郎が多く、新梢発生率で42.6%と青島、K-1の約2倍の発生率であった。1本当たりの伸長量・節間長はK-1で長い傾向にあった。翌年の着花の多い系統は丹生系、杉山であった。

BA処理により新梢発生数が多くなり、特に下位部位からの発生が顕著であった。系統では大津4号、丹生系、K-1、杉山で発生効果が高かった。翌年の着花は杉山で

処理により増加傾向が認められたが、高糖系では認めなかった。

PP-333では、節間長がやや短くなる傾向がみられたものの、伸長抑制効果はやや弱かった。BAとの重複散布は単用散布より抑制効果が高く、大津4号、寿太郎、杉山で伸長抑制効果が認められた。翌年の着花はPP-333単用で減少する傾向がみられたが、高糖系ではBAとの重複散布により着花が増加する傾向が認められた。

摘芯方法では、10節区、20節区とも新梢発生本数、伸長量とも差が認められず、20節区は新梢発生率が低かった。摘芯時期は遅いほうが1本当たりの伸長量が短く、葉数が少ない傾向にあった。翌年の着花は、青島では摘芯時期が早いほう(7月14日摘芯区)が多い傾向にあったが、大津4号、K-1ではほとんど着花がなく、摘芯時期による差は明らかでなかった。

以上より、摘芯葉数・生理活性物質による効果は系統により違いはあるが、BAの150ppmで各系統とも新梢発生を促した。また、BAとPP-333の重複散布により翌年の着花が増加する傾向が認められ、高接ぎ樹における早期結実には有効な手段と考えられる。PP-333による抑制効果はやや不足し、今後、濃度・処理方法等について検討する必要がある。

第 1 表 高糖系温州における生理活性物質の違いによる効果

処 理 区	新 梢		総伸長量	新梢 1 本当たりの			翌 年 の 着 花			翌年の 新梢数	
	発生本数	発生率 ^b		伸長量	葉 数	節間長	有葉花	直 花	全 花		
高 糖 系	BA	4.4本	33.2%	231.8cm	60.8cm	23.0枚	2.62cm	3.6個	0.3個	3.9個	43.5本
	PP-333	3.2	23.0	161.8	52.9	21.8	2.43	2.1	0.1	2.2	32.7
	BA+PP-333	4.4	32.4	202.5	48.5	21.5	2.32	7.8	0.9	8.7	32.2
	無 処 理	3.1	22.7	150.9	54.6	21.1	2.65	4.4	0.3	4.7	29.8
杉 山	BA	5.0本	37.5	207.8cm	41.2cm	16.2	2.64cm	29.4個	5.6個	35.0個	11.7本
	PP-333	2.9	20.0	143.3	53.4	22.2	2.41	16.4	4.0	20.4	12.4
	BA+PP-333	3.8	29.0	120.8	37.2	18.6	1.95	15.7	5.0	20.7	8.4
	無 処 理	2.3	15.0	112.2	55.9	22.0	2.50	21.0	3.5	24.5	8.0

注) a. 青島、大津4号、丹生系、K-1、寿太郎の5系統の平均

b. 残節数に対する発生新梢本数割合